第13課　わたしたちはどのように待てばよいのか

【暗唱聖句】

「怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。12:13 聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、旅人をもてなすよう努めなさい」ローマ12:11～13」

【今週のテーマ】

都市には、世界人口の半数以上が生活しています。三天使の使命を伝えるために、人が大勢いる都市に出ていく必要があります。

【日曜日　都市の性質】

「その後、パウロはアテネを去ってコリントへ行った」使徒18:1

パウロはコリントという都市において、福音を述べ伝えました。都市には多くの言語、文化、民族が集まっています。パウロはまずユダヤ人やローマ市民権とつながりがある人、そして同職のテント職人を探しました。そしてポントス州出身のアキラというユダヤ人とその妻プリスキラを訪ね、一緒にテント作りをしながら生計を立て、安息日ごとに会堂でユダヤ人やギリシャ人を説得し、シラスとテモテがマケドニア州からやって来ると、さらにパウロは御言葉を語ることに専念していきました。その結果、「会堂長のクリスポは、一家をあげて主を信じるようになった」り、「コリントの多くの人々も、パウロの言葉を聞いて信じ、洗礼を受け」ました。パウロは都市の多文化、他宗教という状況の中で、どのように働いたら良いか理解していました。そのような中で、ある夜のこと、主は幻の中でパウロに語られます。

「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。18:10 わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。」18:11 パウロは一年六か月の間ここにとどまって、人々に神の言葉を教えた」使徒18：9～11

コリントという都市には、わたしの民が大勢いると主は言われました。だから、「恐れるな、語り続けよ、わたしが共にいる」と言われ、励まされました。この同じ言葉がわたしたちの住んでいる地域でも言われているのではないでしょうか。

【月曜日　不満の声を聞く】

大勢の人が集まるところには、それだけ多くの問題もあります。イエス・キリストは病人、障がい者、貧困などの問題に苦しんでいる人を同情し、彼らに救いの手を差し伸べました。今日の教会においても、多くの人々が生活している都市では、その分様々な問題が起こっています。それを無視して、一つのメッセージだけを語ることはできません。これらの問題に対して、教会がどのようにかかわっていくのかが、教会の大きな課題となっています。

「それから長い年月がたち、エジプト王は死んだ。その間イスラエルの人々は労働のゆえにうめき、叫んだ。労働のゆえに助けを求める彼らの叫び声は神に届いた。2:24 神はその嘆きを聞き、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。2:25 神はイスラエルの人々を顧み、御心に留められた」出エジプト2:23～25

ここに、神は民の叫びを聞き、御心に留められたとあります。教会も、多くの人々の叫びにまず耳を傾けることが大切です。どのような問題を抱えているのか、どのような不満があるのか、どのような悲しみがあるのか、どのような不安や恐れがあるのか、その声に耳を傾けていくことです。また、その叫びは教会の外だけではなく、内側にもあるかもしれません。それらの叫びにどのように応えていくのかには、知恵や使命感、マンパワー、お金も必要でしょう。自分たちの力を超えている働きであればあるほど、神に頼る信仰へと導かれていきます。

【火曜日　都市における種まきと収穫】

マタイ13:3～9に種まきのたとえ話が出てきます。田舎の畑がたとえ話の舞台ですが、そこに描かれている様々な人々は都市に住む様々な人々を現していると考えることができます。土地の状態が異なれば異なる種類の結果が生じます。だから、まず土地の調査して、あまり良い土地ではないことがわかったら、土地を改良しなければなりません。つまり、伝道においても、前持って土地作りを行っていく必要があるということです。

土地作りにおいては、様々な賜物が必要になってきます。エレン・G・ホワイトは次のように言います。

「（大都市では）種々の賜物に恵まれた人々が動員されるべきである・・・新しい方法が紹介されなければならない。神の民は自分たちが存在するこの時の重要性に目覚めなければならない」伝道P78、79

一つの同じキャンペーンや企画だけでは、そのうち都市に飲み込まれてしまうことでしょう。長期的に、多種多様な方法が必要です。

【水曜日　個人的なものにする】

「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。15:14 わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である」ヨハネ15：13，14

「みなしごや、やもめが困っているときに世話をし、世の汚れに染まらないように自分を守ること、これこそ父である神の御前に清く汚れのない信心です」ヤコブ1:27

「互いに重荷を担いなさい。そのようにしてこそ、キリストの律法を全うすることになるのです」ガラ6:2

都市伝道はたくさんの人々を相手にしますが、一人ひとりと関わり、キリストと個人的な関係を見出すように助けることが重要です。大都会に住む人々の中には、膨大な人口の中で喪失感を感じたり、大切にされていないと感じる人が少なくありません。だからこそ、より一層個人的な関係が必要になってきます。

年間の自殺者が2～3万人

しかし、真剣に自殺を考えたことがある・・・4人に1人

自殺未遂・・・50万人に以上

「大辞林」によれば，孤独とは「頼りになる人や心の通じあう人がなく，ひとりぼっちで，さびしいこと（さま）」を指します。

証

砂漠で一人旅をしても孤独を感じなかった人が、大都会イギリスのカフェで一人で休んでいたとき、話し合える人が一人もいないことに対して無性に孤独を感じて、日本に帰りたくなった。

小グループが大きな教会では大いに役立ちます。互いに支えあい、祈りあうのが小グループ。聖書は互いに荷を担いなさいと語っており、これが律法を全うすることだと教えています。そして、律法は愛であり、愛は、愛する相手があってこそ生まれるものです。

【木曜日　都市の人々に手を差し伸べる】

「ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです」第二ペテ3:9

「神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます」第一テモ2:4

都市には多くの誘惑があり、伝道が簡単な働きではありません。しかし、聖書は神が一人も滅びることを望んでおられないことを示しており、その中には当然無数の大都市に住んでいる人々も含まれています。